野村昭嘉関連記事目録－自著及び展覧会歴を中心に－

安東慶子

はじめに

野村昭嘉は、1964年生まれの佐賀県佐賀市諸富町出身の画家である。1983年に佐賀北高校を卒業後、上京し、東京藝術大学受験のため立川美術学院に通い、さらには美学校や東京芸術専門学校（TSA）で絵を学んだ。TSAを出た後はイラストの仕事をする傍ら1988年から1991年までの３年間で公募展に応募して受賞を重ねていた。

彼の絵の最大の特徴は、あたかも古代の壁画のような風合いにある。シェル・マチエール（貝殻粉）の下地に、アクリル絵具を塗り意図的に表面をひび割れや擦りだして作られている。主題は古代にはない機械の配管や無機質なモチーフと人物や波の図柄が組み合わされ、古代と未来の共存する幻想的な世界観を生み出した。画家として将来を嘱望されていた矢先、1991年３月16日に、アパートの自室にいた彼の元に、工事中のくい打ち機が直撃するという事故に遭い、26歳という若さで亡くなった。

これまで野村に関する文献・論考は少ない。そこで本稿では、彼自身による生前の執筆物の他、現在に至るまでの文献・展覧会出品歴を改めて確認し、野村に関する先行研究を概観する。文末にて、野村の関連記事や事項を集成した年表を掲載しているので本文と合わせて参照してほしい。

生前の資料について

野村自身が執筆した資料としては、６冊の「制作ノート」[1] が残されている。1986年から書かれたＡ４サイズの大学ノート等には、野村の制作に対する実情や作品のエスキースが描かれ、制作過程が分かる貴重な基本資料である。その他、創作の原点となっているスクラップブックなどが丁寧に綴じて保管されている。

野村の執筆物のうち唯一確認できる出版されたものについては、「JACA’88イラストレーション展」に銅賞を受賞した際に寄せられた文章が『中央公論』（1989年２月号）に掲載されている。これまで彼の残した言葉のほとんどは、大きくこの二つの資料から引用されてきた。

しかし、野村が出品した展覧会カタログのうち一部を参照したところ、『JACA’90イラストレーション展』カタログに出品作品についてのメッセージが掲載されていた[2]。1990年１月～７月に書かれた『制作ノート』には類似した文があり、恐らく下書きと思われる。

加えて、野村の多くの作品は、数点を除いて名称不明であるが、その内の３点について展覧会カタログより名称が確認できた。TSA卒業制作展の『秘蔵の一撃』カタログより、《天曇の柩（三）》（図３）[3]、《三方円》（図５）、『JACA’90イラストレーション展』より《トビイラッサ》（図４）という作品である。他にも、作品名が分かっていた野村の代表作の《雲の製造Ⅰ》《雲の製造Ⅱ》についても、『JACA’88イラストレーション』で「曇」の字が使用されている。また、同展の受賞作品については、《曇の製造Ⅱ》（図２）のみ銅賞とされてきたが、実際には《曇の製造Ⅰ》（図１）も出品され、銅賞を受賞していたことが分かった[4]。この時の審査講評では、グラフィック・デザイナーの粟津潔氏からはタイトルについて「おもしろい発想」とのコメントや、同じくグラフィック・デザイナーの佐藤晃一氏からは、メッセージ性を前面に出すイラストレーションとも異なった野村作品は、「イラストレーションとしては、絵画的にすぎてちょっともの足りない」とされつつも一定の評価を得ていることが分かる。

没後の文献・展覧会歴

くい打ち機の事故直後は、新聞記事で大きく紙面に掲載されるも、当時は「フリーアルバイター」として伝えられた。翌日アパートへの聞き取りなどから画家として報道され、１か月後には立川美術学院の同級生であった漫画家の西原理恵子氏によって彼の死を悼む記事が掲載される。

破損を免れた作品を中心に、同世代の支持者が

展覧会を組織し、事故からわずか３か月後で１回、さらに翌年のTSAの卒業展の開催場所にもなったギャラリーのLa Cameraでも作品が展示されるなど、没後２年の内に都内で２回の回顧展が開催された。初めての回顧展のカタログには、「JACA'88イラストレーション展」で審査員を務めた粟津潔氏、美術評論家の米倉守氏、TSA時代の講師の吉田克郎氏があまりにも早い画家の死を惜しんでメッセージを寄せている。

1993年９月、佐賀県立美術館にて同級生・友人らによる「野村昭嘉遺作展」が開催され、絵画保存研究所によって修復された作品21点が初公開された。開催と同時に刊行された『野村昭嘉作品集』（以下、リブロポート）は、野村についての初めてのまとまった資料である。目黒区美術館学芸係長（当時）の正木基氏によって、野村の主題や、作品に表れるエレメントの対比（太古・未来、平面性・立体性など）、創作の源泉になるイメージについてなど、作品の包括的な考察が論じられている。絵画保存研究所の小谷野匡子氏による修復の過程とその分析結果も詳細にまとめられている。リブロポートとあわせて発行された小冊子である『野村昭嘉遺作展作品集刊行に寄せて』は、幼稚園から高校に至る野村のそれぞれの同級生の他、立川美術学院やTSA時代の友人らが、彼についての思い出や制作の様子を振り返り、野村の人柄が窺えるものとなっている。

当時から評価が高かった野村の作品は、当初都内の公立美術館が購入を希望するなど散逸する可能性があったが、1994年３月に、佐賀県立美術館が代表作の15点を一括購入し、翌月の新収蔵品展にてお披露目した[5]。

その年の12月、目黒区美術館でも回顧展「追悼・野村昭嘉：化石化された〈太古・20世紀・未来〉」が開催された。目黒区美術館は野村が1988年に同館区民ギャラリーで開催したグループ展「したい見たい聞きたい」に出品し、画家としてのデビューを果たした縁のある場所でもある。

展覧会では、修復され遺作展でも出品された21点の絵画の他、デッサン、エスキースなど未発表作品70点余りが出品され、最大かつ初めての公立美術館主催の展覧会となった。その折に刊行されたカタログには、正木氏によって、野村が仕事で関わった挿絵の雑誌の他、没後から1994年までの新聞記事等、野村に関係する文献情報が丹念にまとめられている。

1994年の目黒区美術館での展覧会以後は、佐賀県立美術館を中心とした展覧会やイベントが中心となる。佐賀県立美術館では、野村に関する展覧会が2006年、2012年、美術館30周年となる2013年と、過去３回開催している。特に30周年記念展では、館蔵のアクリル画30点に加えて新たに遺族からアクリル画を中心に下絵や制作メモなどの資料類を含めた95点の寄贈を受け、計125点の作品を一堂に公開した。さらに、展覧会イベントとして西原理恵子氏が野村との思い出を語る講演会も開催した。野村の没後30年にあたる2021年３月16日には、19日までの３日間で、美術館２号展示室前で野村の代表作を特別展示した。

佐賀県立美術館における、その他のコレクション展や特別展等でも作品が10回展示された（県内文化施設の巡回展を含む）。2018年には、佐賀県の明治維新150年記念事業として佐賀県立博物館・美術館で特別展「温故維新―美・技のSAGA―」が開催された。近代から現代までの佐賀県ゆかりの芸術家たち150年の歴史から代表作を通して紹介した展覧会で、野村も佐賀を代表する重要な画家の一人として紹介した。

県外の出品展示は、2011年に平塚市美術館の企画展「画家たちの二十歳の原点」に展示された。この展覧会では、明治から現代に至る画家たちの、20代という表現の原点となる年代に注目した展覧会である。野村の作品は、当館所蔵の《雲の製造Ⅰ》《雲の製造Ⅱ》《無題》の３点が展示された。

展覧会以外では、当館の夏休みイベントの小学生を対象としたワークショップ「夏休みこどもミュージアム」や教育普及事業の一つである、出張講座の「ミュージアム・キャラバン隊」でも野村の作品を鑑賞する講座を過去に実施している。

この他の野村に関する論考は、管見の限り、2013年に発表された塩月悠氏の「絵画技法―考察―有元利夫と野村昭嘉のマチエールについて―」（『児童教育支援センター年報』）のみである。マチエールについての研究は、先に述べたリブロポー

トにある小谷野氏の分析が詳しいが、塩月氏によって有元利夫と野村のマチエールに共通してみられるマチエールについての考察されている。

以上が、没後から現在に至るまでの野村に関する研究である。論文数が限られているのに対して展覧会の開催数が多く、文末の年表のとおり確認できている範囲でも主に佐賀県内の新聞で今日に至るまでかなりの頻度で「野村」に関する記事を目にすることができる。

野村研究に必要なのは、不詳とされた作品名の確定など基礎的事実の積み上げであろう。本稿がその一助となれば幸いである。

主な参考文献

・『JACA'88日本イラストレーション展』国芸術文化振興会、1988年
・『秘蔵の一撃』TSA卒業制作実行委員会、東京芸術専門学校、1989年
・『JACA'90日本イラストレーション展』国芸術文化振興会、1990年
・『第３回リキテックス・ビエンナーレ受賞作品集』リキテックス・ビエンナーレ事務局、1991年
・『野村昭嘉回顧展　1964-1991』GALLERY FUMI、1991年
・『野村昭嘉　作品集1964-1991』野村昭嘉作品集刊行委員会、株式会社リブロポート、1993年
・『野村昭嘉遺作展　作品集刊行に寄せて』野村昭嘉遺作展実行委員会、1993年
・『追悼・野村昭嘉展 化石化された〈太古・20世紀・未来〉』目黒区美術館、1994年
・『画家たちの二十歳の原点』土方明司企画・監修、濱本聰・江尻潔監修、求龍堂、2011年
・塩月悠「絵画技法の一考察：有元利夫と野村昭嘉のマチエールについて」（『児童教育支援センター年報』、2013年）
・『温故知新　美・技のSAGA』佐賀県立博物館・佐賀県立美術館、2018年

注

1　本稿では、便宜上、「制作ノート」と呼称する。ノートに関する詳細は同書の野中氏の論考を参照のこと。
2　「制作ノート」（1990年、１月～７月）。
3　《雨雲の柩Ⅰ》《雨雲の柩Ⅱ》という作品がリブロポートの作品情報に載っている。また「制作ノート」（1988～89年頃か、Ｐ42）に「天雲の棺（アマコグモ）」という記述がある。
4　『中央公論』（1989年２月号、中央公論社、カラー図版）に掲載の画像のキャプションにも銅賞受賞とされている。
5　佐賀新聞社、1994年３月６日記事。

（あんどう・けいこ／佐賀県立美術館学芸員）

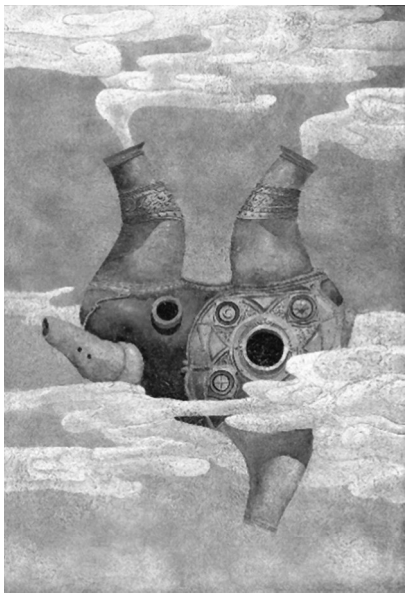

図１《曇の製造Ⅰ》
アクリル・板、103.0×72.8㎝、1988年
佐賀県立美術館蔵

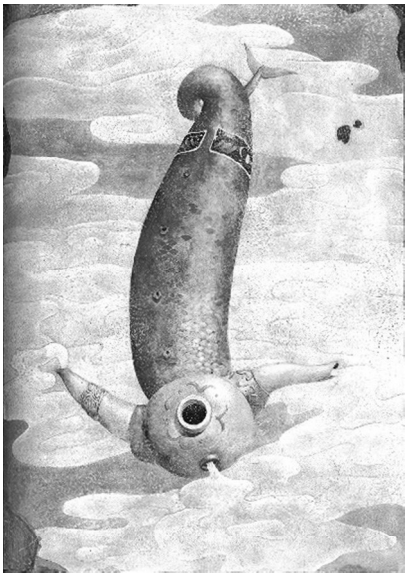

図２《曇の製造Ⅱ》
アクリル・板、103.0×72.8㎝、1988年
佐賀県立美術館蔵

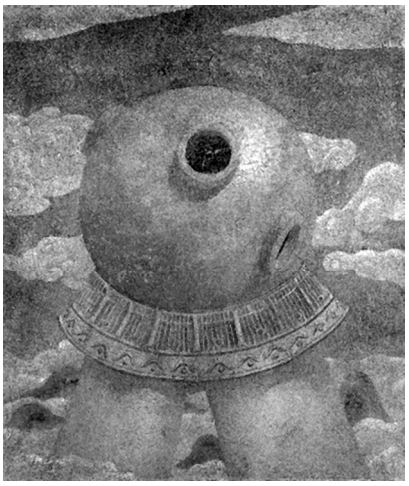

図３《天曇の柩（三）》
アクリル・板、53.0×45.5㎝、1988年
佐賀県立美術館蔵

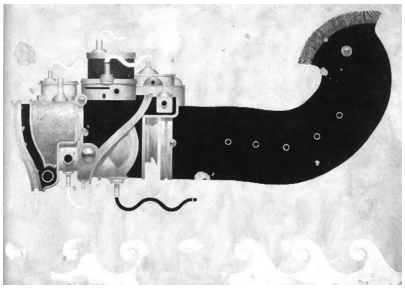

図４《トビイラッサ》
アクリル・板、72.8×103.0㎝、1989年
佐賀市立諸富文化体育館蔵

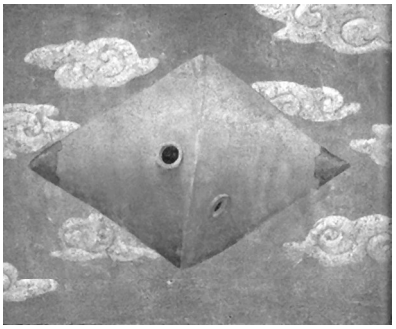

図５《三方円》
アクリル・板、22.1×27.4㎝、1988年
佐賀県立美術館蔵

本年表は、1983年から2021年までの野村昭嘉に関する新聞記事や展覧会などの事柄を集成し、記したものである。1994年までの事柄については、『追悼・野村昭嘉：化石化された〈太古・20世紀・未来〉』（目黒区美術館、1994年）の展覧会カタログの「参考文献」「年譜」を主に参照した。参照した部分には事柄の文頭に※を表記した。

年表にある分類は、展覧会・カタログ・雑誌・書籍・論考・新聞記事・その他に分けて表記した。事柄の表記については、新聞記事名を〔 〕と表記し、筆者が分かる部分は記事名の前に記した。展覧会は、**太字**で表記し、開催場所、主催者の順に記した。なお、巡回展については下行に記した。

分　類	発　行　所	年　月　日	事　　柄
		1983年４月	※上京。立川美術学院入学
		1986年４月	※美学校入学
		1987年３月	※美学校・絵画教場終了
		1987年４月	※学校法人中延学園東京芸術専門学校（TSA）２年編入
展覧会		**1988年７月**	**グループ展「したい見たい聞きたい」（目黒区美術館区民ギャラリー）**
展覧会		**1988年９月１日**	**「JACA'88日本イラストレーション展」《雲の製造Ⅰ》《雲の製造Ⅱ》銅賞** **（東京展：９月１日～６日、川崎展：８日～23日、名古屋展10月14日～23日、インドネシア展：11月～1989年１月、タイ展：２月）**
カタログ	国際芸術文化振興会		『JACA'88日本イラストレーション展』
展覧会		**1988年９月19日**	**～９月24日、「野村昭嘉展」（ギャラリー・アルファー）**
展覧会		**1988年９月30日**	**～10月５日、「フレッシュアート・国際交流展」（TSA、O美術館）**
展覧会	**東京芸術専門学校**	**1989年２月13日**	**～２月18日、秘蔵の一撃－東京芸術専門学校第５期卒業制作展－（コバヤシ画廊・モリスギャラリー）**
カタログ		1989年２月13日	『秘蔵の一撃：東京芸術専門学校第５期卒業制作展』
展覧会		**1989年６月４日**	**～６月７日、「第５回コンテンポラリーアートエキスポ東京'89」（ミカレディ・ザ・スペース、コンテンポラリーアート協会主催）金賞**
展覧会		**1990年８月23日**	**～８月27日、「JACA'90イラストレーション展　招待部門JACAセレクション展」招待部門　出品**
カタログ	国際芸術文化振興会	1990年８月	国際芸術文化振興会『JACA'90イラストレーション展』
雑誌	中央公論社	1990年２月	野村昭嘉「イラストレーション'89　作者のことば　野村昭嘉」
展覧会		**1990年11月**	**第14回九州青年美術公募展　一般部《Oeret》奨励賞　（大牟田文化会館）**
展覧会		**1991年２月16日**	**第３回リキテックス・ビエンナーレ　《Amosu・Norle》入選** **（大阪展：２月16日～26日、東京展：３月１日～13日、札幌展：５月14日～26日）**
カタログ	リキテックス・ビエンナーレ事務局	1991年１月１日	リキテックス・ビエンナーレ事務局『第３回リキテックス・ビエンナーレ受賞作品集』
		1991年３月16日	26歳で夭逝
新聞記事	日本経済新聞社	1991年３月16日	〔くい打ち機、民家直撃〕
新聞記事	朝日新聞社	1991年３月16日	〔ビル工事のくい打ち機、住宅直撃　５棟を壊し１人死亡　立川〕
新聞記事	日本経済新聞社	1991年３月17日	〔整地作業に手落ち？くい打ち機横転事故　死者は計２人に〕
新聞記事	朝日新聞社	1991年３月17日	〔ゆるい地盤見逃す？　立川のくい打ち機事故　下宿の大学生死亡〕
新聞記事	朝日新聞社	1991年３月17日	〔住宅地に深い傷跡　広島の直後、衝撃増幅　立川のくい打ち機転倒事故〕
新聞記事	毎日新聞社	1991年４月７日	西原理恵子〔100トンの重みに惨殺された〈ある青春〉夭折した芸術家の無垢な魂に捧ぐ〕『サンダー毎日』
展覧会		**1991年６月３日**	**～６月15日、「野村昭嘉回顧展」（ギャラリーFUMI）**
カタログ	ギャラリーFUMI		『野村昭嘉回顧展』
新聞記事	佐賀新聞社	1991年６月５日	※〔〈才能豊かな〉遺作に涙新た―個展予定の画廊友人らが回顧展―〕
新聞記事	読売新聞社	1991年６月９日	※〔クイ打ち機倒壊……無念の死　鎮魂の絵画展〕
その他	内外タイムス	1991年６月11日	※〔野村昭嘉回顧展―太古に感じる未来―〕
新聞記事	朝日新聞社	1991年６月11日	〔早すぎた回顧展　事故で死亡した画家の野村さん　東京・銀座〕
新聞記事	朝日新聞社	1991年６月12日	※〔仲間ら奔走　回顧展実現―心尽くしの鎮魂　妹も画廊で供養―〕
雑誌	アサヒグラフ	1991年７月12日	倉林靖「本物の幻視力を備えた作家が残した発掘されるべき「名作」
展覧会		**1992年７月４日**	**『野村昭嘉展』（La Camera）**
カタログ	La Camera		『野村昭嘉展』（La Camera）
雑誌	マガジンハウス	1992年７月５日	※島本慶「浮遊する機会的有機体（パイプ・ドリーム）夭折の画家,野村昭嘉の綺想曲（カプリッチオ）
雑誌	Miss家庭画報	1992年８月　日	※西岡理恵子「残された数枚の絵に果てしない才能の広がりを感じる『野村昭嘉展』
掲載	芸術新潮	1992年９月１日	※STARDUST「杭打ち機に断たれた野村昭嘉の空想文明」
雑誌	月刊プラザ	1993年９月　日	※野村昭嘉遺作展　全国プラザ協議会
新聞記事	佐賀新聞社	1993年９月６日	〔同級生ら友情の遺作展〕
新聞記事	朝日新聞社	1993年９月15日	〔不慮の死を遂げた画家野村さんの遺作展　佐賀北高校同級生ら企画〕
新聞記事	佐賀新聞社	1993年９月18日	〔野村昭嘉さん遺作展　21日佐賀県立美術館〕
新聞記事	西日本新聞社	1993年９月18日	〔友人ら不慮の死を悼み…　画家野村さんの遺作展　佐賀で初めて全作品約60点を公開〕
新聞記事	読売新聞社	1993年９月19日	〔故郷で野村さん遺作展　友人、後輩ら開催に奔走〕
書籍	株式会社リブロポート	1993年９月20日	野村昭嘉作品集刊行委員会『野村昭嘉　作品集1964～1991』
展覧会		**1993年９月21日**	**～10月３日、野村昭嘉遺作展（佐賀県立美術館研修室、野村昭嘉遺作展実行委員会：主催）**
新聞記事	佐賀新聞社	1993年９月22日	※〔東京で事故死の画家　野村さんの遺作　ふるさとで展示〕
新聞記事	朝日新聞社	1993年９月22日	※〔遺作展始まる〕
新聞記事	佐賀新聞社	1993年９月25日	※〔野村昭嘉さん遺作展から　あふれる情熱と自信〕
新聞記事	朝日新聞社	1993年９月25日	※〔東西南北「不慮死の画家の遺作展」〕
新聞記事	毎日新聞社	1993年９月25日	※〔早世画家のしのぶ　県立美術館　野村昭嘉さん遺作展〕
新聞記事	佐賀新聞社	1993年９月28日	※園田〔記者日記　「死を予感していたように」〕
新聞記事	西日本新聞社	1993年９月30日	※鈍秋〔愛のコンビナート　風車〕
新聞記事	佐賀新聞社	1993年10月１日	〔展覧会　「野村昭嘉遺作展」〕
新聞記事	佐賀新聞社	1993年10月１日	投稿「不思議な温かさ　野村昭嘉遺作展」
新聞記事	佐賀新聞社	1993年10月８日	※坂田〔〈記者日記〉プライド〕
新聞記事	佐賀新聞社	1993年10月14日	古藤浩〔「新聞週間」企画「私の紙面批評」（１）〕
その他		1994年３月	佐賀県立美術館作品購入収蔵
新聞記事	佐賀新聞社	1994年３月６日	※〔佐賀県立美術館「新進画家故野村昭嘉さん（諸富出身）代表作15点を購入〕
新聞記事	佐賀新聞社	1994年３月９日	〔県、２月補正、経済的策柱に473億円、〕
新聞記事	西日本新聞社	1994年３月９日	〔佐賀県が一般会計補正予算案、景気対策柱に473億円〕
展覧会		**1994年４月**	**新収蔵品展（佐賀県立美術館）**
新聞記事	西日本新聞社	1994年４月６日	〔昨年度購入の39点初公開、佐賀県立美術館収蔵庫　佐賀〕
新聞記事	佐賀新聞社	1994年４月13日	※園田〔〈「さが文化」・アングル'94〉佐賀県立博物館新所蔵品展で「野村昭嘉の不思議な世界」〕
新聞記事	佐賀新聞社	1994年４月15日	〔有明抄（洋）総合１面〕
新聞記事	佐賀新聞社	1994年５月14日	小野康男〔〈文化批評さが'94〉「野村昭嘉氏の印象的な連作　古代に帰属する現代」〕
新聞記事	佐賀新聞社	1994年８月６日	〔佐賀北高美術部展、70人が200点の力作〕
新聞記事	佐賀新聞社	1994年８月12日	〔さがの博物館　７　県立美術館〕
雑誌	美術の窓	1994年12月	「追悼・野村昭嘉展　化石化された〈太古・20世紀・未来〉」
雑誌	芸術新潮	1994年12月	「追悼・野村昭嘉展［12・10→95・1・16◆目黒区美術館］」
新聞記事	朝日新聞社	1994年12月８日	〔MULLION　博物館・美術館〕
展覧会		**1994年12月10日**	**～１月16日、「追悼・野村昭嘉展　化石化された〈太古・20世紀・未来〉」（目黒区美術館）**
カタログ	目黒区美術館	1994年12月	『追悼・野村昭嘉展　化石化された〈太古・20世紀・未来〉』
新聞記事	毎日新聞社	1994年12月10日	〔遺作の集大成展目黒で　破損の数点も修復〕
雑誌	ぴあ	1994年12月13日	ATTENTION　漫画家・西原理恵子が豪語「彼が亡くなったのは、日本の芸術の大きな損失」
雑誌	Tokyo Walker	1994年12月13日	Art　追悼・野村昭嘉展　化石化された〈太古・20世紀・未来〉
新聞記事	東京中日スポーツ	1994年12月20日	〔夭折した画家　大西赤人〕
新聞記事	赤旗新聞	1994年12月23日	展況　◎野村昭嘉展
新聞記事	朝日新聞社	1994年12月25日	〔くい打ち機転倒で粉々の絵、修復し野村昭嘉展　目黒/東京〕
新聞記事	朝日新聞社	1994年12月25日	〔立川でくい打ち機転倒　巻きぞえ　命とともに粉々の絵修復し追悼展〕
雑誌	月刊美術	1995年１月	追悼・野村昭嘉展/「戦後児童画の一断面」展
雑誌	アサヒタウンズ	1995年１月７日	〔26歳で夭折した画家〕
新聞記事	朝日新聞社	1995年１月９日	〔説得力の持つ「記憶の素形」「追悼・野村昭嘉展」〕
新聞記事	産経新聞	1995年１月13日	〔夭折の画才、友人が世に〕
新聞記事	毎日新聞社	1995年１月14日	〔事故で非業の死、県出身の画家・野村さん　遺作130作集め追悼展〕
新聞記事	佐賀新聞社	1995年１月18日	〔〈さが文化〉東京で野村昭嘉追悼展〕
新聞記事	朝日新聞社	1995年１月25日	〔早世の画家　高まる評価〕

挿絵	集英社	1995年５月10日	表紙挿絵《Oeret》、1990年作（畑山博『ホルスの谷』）
展覧会		**1995年７月18日**	**～7月30日、特別常設展「日本近代洋画の裸体像」（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	1995年７月20日	〔「日本近代洋画の裸体像」展〕
新聞記事	佐賀新聞社	1996年12月４日	〔［特集記事］鳥栖・三神特集　〈鳥栖市図書館で県立美術館所蔵品巡回展〉〕
新聞記事	佐賀新聞社	1996年12月４日	〔展覧会　佐賀県立美術館収蔵品巡回展　６日から鳥栖で開催〕
新聞記事	佐賀新聞社	1996年12月５日	〔展覧会（６－15日、鳥栖市立図書館）イベントガイド「昭和・平成をつづる佐賀の洋画家たち」のサブタイトルで高木背水から…〕
展覧会		**1996年12月６日**	**～12月１５日、県立美術館所蔵品巡回展・冬の美術館「昭和・平成をつづる佐賀の洋画家たち」（鳥栖市立図書館）**
新聞記事	佐賀新聞社	1996年12月12日	〔15日まで、鳥栖市立図書館）イベントガイド「昭和・平成をつづる佐賀の洋画家たち」のサブタイトルで高木背水から…〕
新聞記事	西日本新聞社	1996年１月26日	菊畑茂久馬〔続絶筆　いのちの炎〕
新聞記事	佐賀新聞社	1998年４月20日	〔月曜ギャラリー（１）故野村昭嘉〕
新聞記事	佐賀新聞社	1999年９月２日	〔９月のプレイガイド〕
新聞記事	佐賀新聞社	1999年９月22日	〔昭和を代表する郷土画家の作品〕
新聞記事	朝日新聞社	1999年９月23日	〔さんさんネット　佐賀発信/佐賀　秋の美術館99〕
展覧会		**1999年９月25日**	**～10月6日、佐賀市立諸富文化体育館、所蔵巡回展「秋の美術館99」（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	1999年９月26日	〔郷土画家の遺作中心に　佐賀県立美術館が所蔵品巡回展〕
新聞記事	佐賀新聞社	1999年９月29日	〔展覧会〕
新聞記事	佐賀新聞社	1999年11月６日	澤登〔野村さん遺作常設展示〕
その他		**1999年11月**	**野村作品《トビイラッサ》が常設展示される（佐賀市立諸富文化体育館）**
新聞記事	佐賀新聞社	1999年11月13日	澤登〔野村さん遺作絵はがきに　諸富町のハートフルが制作　母校の佐賀北高に贈る〕
新聞記事	佐賀新聞社	2000年３月８日	副島〔感性刺激する"変わった絵"〕
展覧会		**2000年３月11日**	**～３月26日、「異風の絵画展」（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2000年３月15日	〔〈県内文化〉異風の絵画展〕
新聞記事	佐賀新聞社	2004年７月１日	〔７月のプレイガイド〕
新聞記事	佐賀新聞社	2005年３月16日	〔〈スポット〉「未知への挑戦ー佐賀の現代絵画ー」展〕
展覧会		**2005年３月16日**	**～４月10日、「未知への挑戦ー佐賀の現代絵画」展（佐賀県立美術館）**
新聞記事	西日本新聞社	2005年５月29日	〔〈論説〉寄託品の回収騒ぎ〝目玉〟の常設必要〕
新聞記事	佐賀新聞社	2006年４月１日	〔〈４月のこよみ〉文化　野村昭喜展〕
新聞記事	佐賀新聞社	2006年４月１日	〔４月のプレイガイド〕
展覧会		**2006年４月14日**	**～５月28日、野村昭嘉展（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2006年４月19日	〔〈スポット〉野村昭嘉（佐賀市諸富町出身）展、夭折の画家　軌跡に光〕
新聞記事	佐賀新聞社	2006年５月３日	〔Ｅ・グランドール記者　見たり聞いたり　GWの絵画鑑賞〕
新聞記事	佐賀新聞社	2006年５月７日	〔マイブック　「野村昭嘉作品集」〕野村昭嘉著（リブロポート発行）
新聞記事	佐賀新聞社	2007年２月10日	〔野村昭嘉さん・田中連蔵さん、回顧展〕
展覧会		**2007年２月10日**	**～２月11日、「諸富町美術展」（佐賀市諸富町　ハートフル文化会館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2008年８月27日	〔有明抄（賢）　洋画家真子さん追悼〕
その他		**2010年７月16日**	**８月31日、夏休みこどもミュージアム「みんな集まれ！美術館探検隊」（佐賀県立美術館２・３号展示室）**
新聞記事	佐賀新聞社	2010年７月21日	〔佐賀県立美術館「みんな集まれ！美術館探検隊」〕
カタログ	求龍堂	2011年３月	『画家たちの二十歳の原点』（土方明司・監修、濱本聰・江尻潔　監修）
展覧会		**2011年４月16日**	**～６月12日、「画家たちの二十歳の原点」（平塚市美術館）《雲の製造Ⅰ》・《雲の製造Ⅱ》・《無題》（1986年作）出品** **（下関市美術館：６月18日～７月31日、碧南市藤井達吉現代美術館：８月９日～９月19日、足利市立美術館：９月25日～11月13日）**
新聞記事	朝日新聞社	2011年６月12日	〔〈視線〉保坂健二郎（東京国立近代美術館研究員）画家たちの二十歳の原点〕
新聞記事	朝日新聞社	2011年７月19日	〔「評」美術　「画家たちの二十歳の原点」若者の閉塞感　昔も今も〕
新聞記事	佐賀新聞社	2011年12月28日	〔１月のプレイガイド〕
新聞記事	佐賀新聞社	2011年12月31日	〔１月のこよみ〕
展覧会		**2012年１月19日**	**～２月19日、コレクション展「野村昭嘉」（佐賀県立美術館）　館蔵品約40点出品**
新聞記事	日本経済新聞社	2012年１月25日	〔美術がいどガイド　コレクション展「野村昭嘉」〕
新聞記事	朝日新聞社	2012年１月26日	〔佐賀情報　展覧会　コレクション展「野村昭嘉」〕
新聞記事	佐賀新聞社	2012年１月22日	〔有明抄（園）　26歳の完全な世界〕
新聞記事	佐賀新聞社	2012年１月27日	〔早世の画家・野村昭嘉展〕
新聞記事	西日本新聞社	2012年２月16日	〔情報キング　美術館・博物館めぐり＝特別展「細川家の至宝ー珠玉の永青文庫コレクション」〕
論考	長崎純心大学	2013年３月10日	塩月悠「絵画技法の一考察：有元利夫と野村昭嘉のマチエールについて」（『児童教育支援センター年報』）
新聞記事	佐賀新聞社	2013年４月５日	〔佐賀県立美術館開館30周年　４季に分け全収蔵庫品公開〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年７月26日	〔漫画家西原さん講演会「夭折の画家　野村昭嘉」展を記念〕
新聞記事	西日本新聞社	2013年８月20日	〔福岡県/まちなび＝アクロス文化学び塾「美を見つめた１万日」/福岡都市圏〕
新聞記事	西日本新聞社	2013年８月21日	〔［文化短信］西原理恵子が語る。「私の大切な友人」野村昭嘉〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年８月30日	〔９月のプレイガイド　展覧会　「美の先人たち」　山口亮一、武藤辰平ら６日から、佐賀県立美術館〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年８月31日	〔みんなの掲示板（８月31日付）〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年９月１日	〔伝承芸能フェスティバル、荒踊…祭りや催し実りの秋　きょうから９月〕
展覧会		**2013年９月６日**	**～10月20日、佐賀県立美術館30周年　SEASON２「夭折の画家・野村昭嘉」（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2013年９月６日	浦川和也〔寄稿「作品の力」に心動く〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年９月６日	〔展覧会〕
	西日本新聞社	2013年９月８日	石田剛〔佐賀県/「デッサン際立っていた」佐賀県立美術館の作品展で企画　野村昭嘉さんの魅力語る〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年９月10日	〔「夭折（ようせつ）の画家　野村昭嘉」展〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年９月24日	〔西原理恵子さん　講演　野村昭嘉を語る〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年10月２日	〔きょうの催し〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年10月５日	〔みんなの掲示板〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年10月９日	〔きょうの催し〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年10月12日	〔みんなの掲示板〕
新聞記事	朝日新聞社	2013年10月13日	上山崎雅泰〔佐賀県立美術館30周年祝う　きょうまで催し〕
新聞記事	佐賀新聞社	2013年11月３日	〔活躍の卒業生が121点展示佐賀北高50周年記念〕
展覧会		**2013年11月**	**佐賀北高50周年記念「美術・書道展」（佐賀市文化会館）《不詳（N-13）》出品**
新聞記事	佐賀新聞社	2013年12月10日	〔佐賀県立美術館コレクション展 SEASON3　蘇った絵画展〕
新聞記事	西日本新聞社	2013年12月27日	南陽子〔回顧2013〈上〉文学　美術ー連載〕
新聞記事	佐賀新聞社	2014年３月21日	〔有田工高が県美とコラボ展〕
展覧会		**2014年１月24日**	**～３月30日、開館30周年記念　佐賀県立美術館コレクション展ーSEASON４（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2014年４月６日	藤生雄一郎〔佐賀県立美術館の「コレクション展」好評〕
展覧会		**2014年８月５日**	**～８月24日、私のイチオシベストコレクション展（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2014年８月８日	藤生雄一郎〔イチオシベストコレクション展〕
雑誌	美術の窓	2016年４月20日	「現代を駆け抜けた夭折の画家たち」
展覧会		**2018年３月17日**	**～５月13日、「温故知新　美・技のSAGA」（佐賀県立博物館・佐賀県立美術館）**
カタログ		2018年３月17日	『温故維新　肥前さが幕末維新博特別展　美・技のSAGA』（温故維新展等実行委員会、佐賀県立博物館・佐賀県立美術館）
新聞記事	佐賀新聞社	2018年４月30日	花木芙美〔温故維新　美の系譜　佐賀にたどる近代芸術〕
新聞記事	佐賀新聞社	2018年５月13日	原田隆博〔芸術の広がりの軌跡〕
新聞記事	佐賀新聞社	2018年９月21日	花木芙美〔平成ーこの日、〕
新聞記事	佐賀新聞社	2019年８月20日	古川公弥〔Ａからはじまる美術館　さがゆかりの絵画、彫刻39点　所蔵品鑑賞し英語身近に〕
展覧会		**2019年８月８日**	**～８月23日、テーマ展「Ａからはじまる美術館」（佐賀県立美術館）**
展覧会		**2021年２月**	**～２月28日、コレクション展「佐賀・美の道」（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞社	2021年２月19日	澤登滋〔佐賀の「美の道」たどる〕
その他		**2021年３月16日**	**～３月18日、特別公開　野村の代表作を展示（佐賀県立美術館）**
新聞記事	佐賀新聞 Life	2021年３月16日	浦川和也〔寄稿「野村昭嘉没後30年」〕
新聞記事	佐賀新聞社	2021年９月27日	福本真理〔武雄北中が美術館に　本物の絵画、彫刻鑑賞〕